

# 荒っぽい言葉遣いの夫を認め 老夫婦二人暮らし家庭を支える

★ 今回も、スーパーヴァイザー・奥川幸子氏を招いて開かれた研修会の模様を紹介する。  
(検討会及び事例の内容は、誌面の都合上、全体の趣旨に差し支えない範囲で変更させていただきました)。  
C型肝炎を患いながらも、なんとか自宅で妻を介護したいと頑張る夫。  
荒っぽい言葉遣いということあるごとに役所に嘸みついてきたため、  
なかなか行政職員の応援を得られない。  
ソーシャルワーカーは、どんな点を評価し、どのように援助を進めていけばいいのか――。

## 事例提出者

Kさん (在宅介護支援センター・ソーシャルワーカー)

## 事例の概要

- ・ 高齢夫婦世帯であり、妻は平成8年3月脳出血にて左上下肢麻痺となり、夫が介護を行い、在宅生活をしている。
- ・ 現在は、介護保険でのサービスを受けており(要介護2)、居宅介護サービス計画依頼は当支援センターが受けている。介護保険施行後より週3回の通所介護サービスと週3回の福祉給食(夕食)を利用中である。
- ・ 介護者である夫(65歳)にはC型肝炎等の病気があり、平成11年5月頃より入退院を繰り返している。

## 利用者

O氏(女性) 昭和11年生まれ(64歳)  
**現病歴:** 高血圧性脳内出血(平成8年3月)  
**既往歴:** 昭和49年、胃がんのため胃切除(4分の3)。平成10年10月、自宅トイレで転倒し、腎

部打撲し、20日間入院。その後完治。

## 家族構成

- 夫——65歳。同居。
- 長男——47歳。行方不明。
- 次男——44歳。隣県在住。年2～3回帰省。
- 三男——32歳。関東在住。年1～2回帰省。

## 概要

昭和11年、5人兄妹の次女として生まれる。  
 昭和28年(17歳) 結婚。  
 昭和29年(18歳) 長男誕生。  
 昭和30年(19歳) 夫が肝がんで死亡。このとき、次男がお腹にいた。  
 昭和31年(20歳) 次男誕生。  
 昭和42年(32歳) 現夫と知り合い再婚する。  
 昭和43年(33歳) 三男誕生。前夫の子ども2人を含め、5人家族となる。  
 昭和45年(35歳) 夫、アルコール依存症にて、肝臓が悪くなり何度か入退院を繰り返すが、入院中も飲酒していた。この頃から宗教に入る。  
 昭和49年(39歳) 胃がんの手術をする。  
 平成8年(60歳) 脳出血にて倒れる。このとき

より、夫は妻に対して責任を感じアルコールを止める。

## 援助経過

平成9年8月

住宅改修の申請があり、条件が適合しないためお断りの訪問に行く。その時、夫は「聞かされていた話と違う」と激昂。以前より、夫は「クレイマー」として知られており、役所全体が苦手意識をもっていた。

平成11年3月1日

役所（福祉課）よりTELあり。介護者（夫）より、ショートステイの依頼あり。午後訪問することとなる。

訪問し、介護者（夫）と本人より現状等を聞く。平成8年、脳出血により左上下肢機能障害となり、退院後夫が介護しているが、今回夫の体調が悪く、受診。その間介護者不在となるための利用ということであった（3月2日（火）～3月5日（金）まで利用予定）。

本人の受け答えはしっかりしており、入所にあたり不安もあるようだが、夫の体調への気遣いもみられる。補助具及び杖使用で室内はゆっくりとだが歩行可。

室内はきれいに片づいており、掃除も行き届いている（家事一切は夫が行っている）。

3月2日

14:00、夫の運転する車にて来所。夫より、内服薬等に気をつけてほしいという話がある。

3月3日

初めての入所で昨夜は眠れなかったとのこと（受診後、夫の面会あり）。

3月5日

入浴が気持ちよかったことと、施設で友達ができてよかったと話す。夫の迎えあり、9:30退所となる。

3月8日

夫よりTELあり。午後訪問する。夫が受診するため、その前日よりショートステイの利用希望あり。

3月9日

一泊二日の利用となる。受診後、夫の面会あり。疲れているのに体に悪いですよと夫に声をかけると、「心配だから」と一言。本人も自宅に一人でいるのは寂しい様子。

3月10日

夕食後、夫が迎えにきて退所。

その後も、5月に夫がヘルニアの手術を受ける間、1週間ショートステイを利用する。

8月4日

様子伺いのため、自宅を訪問する。

妻、ベッドに腰掛けてぼーっとしている。ADL的には変わらず元気な様子。夫は外で草取り中で、在宅サービスについて説明をするが、「俺がするからいい」と言う。極力人の手は借りたくないとのこと。

その後、10月中に2度、夫の検査等のためシ

ショートステイを利用するが、いずれも1週間の予定のところを、翌日夫が引き取りにきて退所させてしまう。妻はそのつど「勝手なことばかりしてご迷惑をかけて申し訳ない」と言いながらも、夫に従って帰る。

#### 11月18日

福祉課よりTELあり。夫よりヘルパー派遣について相談あり。体調が悪く調理できないとのこと（この頃、夫は毎日病院にて点滴を受けている）。

夫にTELし、現状を聞く。食欲なく、全身倦怠感等が続いている様子。受診を勧めると、病院の医師より「C型肝炎に効く薬はない」と言われているとのことで、「病院に行ってもしかたがない、入院はしない」と言われる。介護が無理なときは、サービスを利用するよう話す。

#### 11月19日

10:00、様子伺いのため訪問する。来週より、ヘルパー派遣、福祉給食利用となる。「いろんなサービスを受けるほうが、夫の体にはよい」と妻。

#### 11月25日

ヘルパー利用開始。週2回。このとき、介護保険申請についてヘルパーより説明を受け、申請を行う。

#### 11月29日

訪問。本人・夫・隣人（O氏）を交えて話し合う。夫の体調が悪く食欲もない。倦怠感等（嘔気、嘔吐、ふらつき、全身脱力感、思考力

低下）があるため、食生活が不規則。妻も食事を摂っていないことが多い（自分だけ食べるわけにはいかないとのこと）。胃の検査結果が今日わかるとのことなので、O氏の運転で病院へ連れて行ってもらう。夫は、そのまま入院となる。そのため、妻はショートステイを利用することとなる。

夕方、支援センターの車にて緊急ショートステイ入所となる。妻は頬がこけて、顔色も悪く、以前のような明るさがない。

#### 12月3日

夫よりTELあり。ショートステイの延長希望がある。12月12日（月）までの予定。

#### 12月7日

夫、来所。昨日退院したので迎えに来たが、妻の希望にて、延長申請日（12月12日）まで入所していたいとのこと。妻は、夫の身体のことを心配している。「自分がショートにいる間、夫には家でゆっくり過ごしてもらいたい」と妻。

#### 12月12日

ショートステイ退所。夫の迎えあり。

#### 12月15日

様子伺いのため訪問する。ショートステイ退所後の状況を聞く。本人（妻）は昨日定期受診の結果、異常なし。夫の体調も安定しているため、ヘルパー派遣、福祉給食は一時中止して様子をみたいとのこと。調理の内容に不満があったようだ。

#### 平成12年2月17日

O氏（隣人）よりTEL相談あり。



10:00、夫よりO氏のところへSOSのTELがあったため訪問すると、トイレ付近で倒れており、救急車でS救急病院へ搬入され、入院したとのこと。福祉課に報告し、緊急のショートステイ利用となる。2月17日(木)～28日(月)の予定。

#### 2月18日

夫よりTELあり。本日退院したとのこと。

#### 2月28日

9:30、退所。夫、迎えにくる。

#### 3月1日

夫より、介護ヘルパー利用の希望あり(体調不良時)。サービス内容等について説明し、4月からの介護保険についても説明を行う。

#### 3月14日

訪問。ホームヘルプサービスと介護保険について説明に行くが、本人、夫とも、通所介護サービスを希望する。

#### 4月7日

本日より通所介護利用となる。週3回、月・水・金の予定。

以後、4月、7月にもそれぞれ12日間、5日間ショートステイ利用している。

## ケース検討会

**奥川** Kさんが今いちばん引っかかっていることは何ですか。

**Kさん** 夫は自分の体調が悪いにもかかわらず、ヘルパーなどのサービスを利用しようとしません。今のままショート利用を繰り返す援助でいいのか、もっと踏み込むべきなのかがよくわからない状況です。

**奥川** では、クライアントの状況をもう少し浮き彫りにさせるために必要な情報をKさんから引き出してください。

**発言** 家族関係を教えてください。

**Kさん** 本人(奥さん)と前のご主人の間に2人の息子さんがいらっしゃいます。長男は行方不明です。次男は隣県に住んでおり、年に2～3回は帰ってきて、少し小遣いを置いていってくれるそうです。今の旦那さんとの間には三男がいますが、東京にお住まいで、ほとんど帰ってくることはないようです。ただ、電話でのやりとりはあり、関係は良好のようです。

**発言** 夫の兄弟や親族との関係はどうなっていますか。あと、奥さんの兄妹関係なども教えてくださいいただけますか。

**Kさん** 夫は東北地方の出身ということで、こちらのほうにはだれも身内はいません。行き来も一切ないということでした。妻には4人の兄

妹がいて、一番下の妹さんとは時々電話で交流しているということです。それと、2番目の弟さんも年に1、2回電話で連絡はとり合っていると聞いています。

**発言** 夫はこれまでどんな仕事をしていたのですか。

**Kさん** 昔は土木関係の仕事に就いていたようです。奥さんと結婚した当初から肝臓が悪かったようで、職場は転々としたようです。

**発言** お二人の収入は怎么样了ですか。

**Kさん** お二人とも厚生年金で、合わせて10万円ぐらいあります。

**発言** 隣人のOさんというのは、どんな関係の方なのでしょうか。

**Kさん** ふだんはそれほど行き来はないようですが、困ったときは連絡をして、何かと手伝っていただいているようです。Oさんのほうでも、時々は「どうですか」と様子を見てくださっているようです。

**発言** 本人の略歴のところ、35歳の頃、夫がアルコール依存で入院し、自分は宗教に入るとありますが、現在は宗教とはどのようなかわりがあるのでしょうか。

**Kさん** 現在も集まりなどには参加されていません。ご主人が車で送っていくようです。また、ご主人の体調が悪いときは、宗教関係の方が薬を取りに行ったりもしているようです。月に1～2回程度、自宅にも訪問されているようです。

**発言** アルコール依存といったことがある場

合、保健婦さんがかかわってもおかしくないと思うのですが。

**Kさん** 町内のサービス調整会議などでは、時々このケースを挙げて皆さんで議論していただいているのですが、昔からご主人はいろいろな決まり事に対して強い口調で文句を言っていた方で、役所全体がご主人に対して苦意意識をもっているため、他の部署の方にはあまり積極的にはかかわっていただけません。

**発言** 初回訪問は平成11年ということでしょうか。

**Kさん** 今回の件に関してはそうです。ただ、平成9年に住宅改修をお断りに行ったときに一度お会いしたことがあります。その時も、奥さんが入院してらした病院のPTからは「できる」と聞かされていたようで、私の目の前で病院に電話をして「てめえ！できるって言ったけど、できねえじゃねえか！」って、すごい剣幕で。私はそういう言葉遣いを生で見るのは初めてだったので、本当にビックリしてしまって……。

**奥川** 初めてだとビビっちゃうわよね。

**Kさん** 役所の人たちは完全に旦那さんアレルギーというか、直接かかわろうとはしません。

## 夫の人物像

**発言** なぜ行政の人からそんなに嫌われているのですか。

**Kさん** 決まり事にいちいち文句を言ってくるということ……。



**奥II** それは全部理不尽な文句ですか。それとも、なかにはまっとうな文句もありますか。

**Kさん** 筋が通っていることもあると思います。

**奥II** 援助職者も人間ですから、やっぱり当たりのいい人のほうがやりやすいですね。でも、相手がそういうふうに出てくるというのは、それなりの理由があるはずなんです。それをどれだけ洞察できるかが大事です。このご主人が怒ってくるのは、どんなときなのか。プロだったら、そこを洞察する必要があります。理不尽なことを言ってきているなと思ったら、ピシッと断っていい。だけど、断る前に、どうしてそういうことを言うてくるのか、そこをきちんと私たちは見ていかなければなりません。そこをちゃんと見極めないで、簡単に「トラブルケース」なんて言っただけは駄目です。

そんなにこのご主人は怖いですか。

**Kさん** いや、どちらかという単純で、かわいいところもあります (笑)。

**奥II** ご主人の「てめえ」というような話し方

はどこから来たものですか。

**Kさん** 仕事関係だと思えます。

**奥II** そうですね。土木や建築関係の荒っぽい仕事をしていた人って、言葉遣いも荒くて、入れ墨なんかも入れたりしてましたよね。

**Kさん** ご主人も入れ墨はあります。でも、最近はまだ「お世話になります」みたいな感じで低姿勢です。

**奥II** じゃあ、怖くないでしょう。

**Kさん** 怖くないときもあります (笑)。

**奥II** だんだんご主人の輪郭が出てきましたね。目つきが鋭い。肩で風切って歩く。不治の病をもっている。それで、やっぱりキレると怖い。言葉遣いもすごく悪い。でも、かわいくていい人。どのあたりが、いい人ですか。

**Kさん** 奥さんの介護を一生懸命やっているところ。

**奥II** そう。珍しいですよ。

**Kさん** はい。こんな人いないです。自分の身体もだるいのに、毎日お風呂に入れて、掃除とか洗濯なんかも……。

**奥II** だんだんいい人になってきましたね (笑い)。では、これからどう付き合っていくといいか。そのことが課題でした。この夫婦がどういう状況で生きているかというところをもう少し押さえます。

## 夫婦の関係の歴史

**発言** 経過を見ていると、いろいろなことをご主人が決めていて、奥さんご本人がどんな希望

をもっているのか、物事を決める能力があるのかがよくわからないのですが、そのあたりはいかがでしょう。

**Kさん** 奥さんの希望としましては、できるだけご主人と自宅で過ごしたいと思っておられます。それと、いずれご主人さんが悪くなったときには、自分は施設に入所しないといけなかなど考えていらっしゃると思います。物事を決める力については、2度目のヘルパー希望は奥さんの要望でデイに変わりましたし、12月にご主人が迎えに来たときも奥さんが拒否してショートの特延をしていますので、十分力はある方だと思います。

**発言** 奥さんのセルフケア能力はどのぐらいありますか。

**Kさん** 家事はできません。排泄は、ゆっくりですけど、自力でトイレまで歩いて行っています。食事も作ってもらえば食べられます。身体機能的には、ヘルパーが入れば奥さん一人でも在宅生活は可能だと思います。お風呂は、今はデイサービスも使っていますが、家ではほとんどご主人が全介助状態で入れています。ただ、デイサービスに来たときは、できるところはやってもらっています。

**奥II** ここは大事なところですね。自分でできるところがあるのに、全部ご主人がやっけてあげている。それはどういうことなのか。客観的に見れば、ご主人のほうが病気で身体が悪く、奥さんのほうが丈夫なんですよ。どうしてこういうふうになっているのでしょうか。

**Kさん** ご主人にとって、奥さんの世話をするのが生きがいになっている。

**奥II** そう。情緒的な絆が強いということですよ。では、このご主人と奥さんは、どういう関係の歴史を経て現在に至っているのかということはどうですか。

**Kさん** 今のご主人は2度目のご主人で、前のご主人との間の子2人を育ててもらったという恩もあるんじゃないかと思います。

**奥II** それもありますよね。このご主人はアルコールで肝臓を若いころから悪くして、定職にはあまり就いていなかった。奥さんも仕事をしてきたのですか。

**Kさん** はい。農家とか、転々とお金になる仕事をやって……。

**奥II** ご主人も体が弱かったから、奥さんも一生懸命働いて支えてきたんですよ。そうやってきた歴史がどのぐらいありますか？

**Kさん** 約34年あります。

**奥II** 34年の歴史って大きいと思いませんか。ここでエピソードが出てくるんです。平成8年、60歳の時に奥さんが脳出血で倒れると、ご主人はこれまでの自分の行動に責任を感じ、アルコールをピタッとやめましたね。それで、毎日お風呂に入れている。行動で示しているということです。これがこの夫婦の関係の歴史です。

## 夫の生きがいと

## 妻の居がい

**奥II** ご主人にとっては、奥様の世話をするの



が生きがいであり、生きている証になっている。奥さんにしてみれば、デイで週3回入浴しているわけですから、病気のご主人に入れてもらわなくてもいい。でも、それを嫌だと言わないで入れてもらっている。

**Kさん** 奥さんがご主人の生きがいに応えている……。

**奥川** そうです。そうすると、この夫婦の絆は、相当強いと思いませんか。でも、それは行政の人にはわからない。ご主人のことをなんて言っているんですって？

**Kさん** 「自分の身体が悪くなってからアルコールやめても駄目だ。もう少し元気なうちにちゃんとしないと」

**奥川** そういうふうにはレッテルを張っちゃったら、人間って頑張る力も出てきませんよね。せめて援助のプロである援助職者は、そこをきちんと評価して、ご主人を認めるという態度と、それを言葉で返すことが必要です。それが保証なんです。そして、ああ、この人の原動力はこ

ういうところにあるのか、この夫婦の情緒的絆はこういうふうにでき上がっているのか、とわかかったら、それをしっかり言葉にして周囲にも伝えていく。そうしないと行政の人にはわからないでしょう。これが代弁機能です。

ご主人はこうやって生きている証を一生懸命出している。奥さんはそれを受け入れることによって居がいがある存在となっている。奥さんは、一見、受動的に見えるけれども、実はそうでもないですよ。

**Kさん** はい。ショートの延長など、ポイントポイントでは自分の意見をおっしゃいます。

**奥川** この二人とこれからどう付き合うかという点ですが、二人はどういうふうな生き方をしたいっておっしゃっていますか。

**Kさん** できるだけ家にいたい。

**奥川** では、ここで問題にしなくちゃいけないのは、どんなことですか。

**Kさん** ご主人の病状です。

**奥川** それはどうして。

**Kさん** 奥さんのことを今後どれだけ介護できるのか。

**奥川** そうですね。今後の介護力を見るために、ご主人の病状というのは必須の情報です。いま、病気はどのぐらい進んでいるのですか。

**Kさん** 薬が効かないくらい進んでいるようです。

**奥川** C型肝炎でインターフェロンの治療が効かないということでしょうね、まだ類推の段階ですが。ということは、相当進んでいる可能性



がありますね。C型肝炎というのは肝硬変になって、がんに移行するといわれています。そうすると、今どういう段階にあるのかというのは、今後の奥さんとの生活を考える上で必須の情報ですね。

これはご主人に聞いていいんですよ。自分の病状をどんなふうに把握しているのか。もちろん聞き方は工夫しなくちゃいけません。「先生からどのように説明を受けていらっしゃるんですか」と聞けますよね。

## 夫の強さを見る、認める

**奥II** そうすると、これから先、まず何をしますか。

**Kさん** 認めてあげる。

**奥II** 認められる？クリカラモンモンを（笑）。

**Kさん** 認めます。

**奥II** 認めて、その次はどうしますか。

**Kさん** ご主人と奥さんを交えて話し合っ、奥さんができることや、ご主人がこれからどういう生活を送りたいと思っているのかをよく聞いて進めていきます。

**奥II** そう。そのときは、ちゃんと保証するんですよ。ご主人は奥さんのことが看たいんですよ、よく見ていらっしやいますよねって。それで、万が一具合が悪くなったときは、どうしましょうかねって。ご主人の肝臓って、不定期に悪くなりますからね。そのときのために、こっちは打つ手を用意しておく必要があります。そういうときに、奥さんをお預かりしてくれると

ころはありますか。

**Kさん** ショートステイがあります。

**奥II** 空いてないときはないですか。

**Kさん** いつでも空いています（笑）。

**奥II** そう。じゃあ、手札は持っているのね。

そして、ご主人の身体が本格的に悪くなった場合のことを奥さんと話しておく必要もありますね。最初は苦手だって言っていたけど、このご主人とやっていけそうですか。

**Kさん** はい、大丈夫です。

**奥II** いいところを見るというのはすごく大事なことです。ご主人のいいところって、Kさんの事例報告のなかにもいっぱい出てきますよ。改心してアルコールをやめた。そしてこれほど献身的に介護している。これはすごい強さです。ほかにも、ショートに自分で車を運転して送っていたり、内服薬等に気をつけてほしいという申し出をすとか。Kさんたちが訪問したときに室内がきれいに片づいているとか、これは全部ご主人の強さです。奥さんも同じように強さを発揮していますね。夫の介護を拒否してショートステイの延長をしたときとか。だから、二人ともかなり能力は高い人たちなんです。

では、最後にKさん、感想をどうぞ。

**Kさん** まず、アセスメントがまだまだ足りなかったというのを強く感じました。それと、ご主人については、自分たちの思い込みが強かったと反省しました。でも、明日からはご主人のいいところをきちんと認めて、援助していけると思います。ありがとうございました。